



ゆりがごえんだより 2018・10・1

3期(10~12月)のねらい 手を使てつくりだす活動を中心に園生活を豊かにしよう

9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

電気が止まり連絡のとれない状況で、皆様にはご心配とご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。電気がつかない中での保育に、不安な思いでわが子を預けられた方もいらしたと思います。至らぬことも多くありましたが私たちは全力で子どもたちの保育を守ると自負しております。

さて、地震からしばらくたつたある日、外食中隣の客の会話が耳に入りました。

「保育園大丈夫だった？」

「うん。おかげ様で何の被害もなかった。建物も無事だったし」

「保育園って、やってたの？」

「まさか、やるわけないでしょ。休園にしたよ。余震も続いているのに。子どもは親と一緒にいるのが一番安心なんだから」

「そうだよねー」



二人のうちの一人は保育士か園長なのだろうと推測されます。被害の状況によつては休園せざるを得なかった園もあると思います。仕事に向かう父母の子どもを守りたいと、制限がありながらも発生当日から保育園を開けた判断に迷いはありませんでした。医療関係や警察関係、その他市民の生活を支えてくださる方々のご尽力には頭が下がります。大きな被害のなかった当園ですが、これが保育中や冬場に起きていたらと思うとゾッとします。

保育所の最低基準における職員配置に必置義務となっているのは、保育士と調理員、そして嘱託医です。主任保育士やフリー保育士、栄養士や園長は含まれていません。0さい児3対1、1・2さい児6対1、3さい児20対1、4・5さい児30対1という最低基準の保育士数では最低の保育しかできません。

今秋の署名運動が始まっています。高架下やビルのワンフロアなどに保育園が続々とできています。震災などの非常事態時に子どもたちを守れるのかと不安になります。すべての子どもの未来が明るいものであつてほしいし、それを保障する豊かな保育制度であつてほしいと思います。